

宇治団地体操クラブ誕生！

（伊野地区枝川）



地域のお宝情報誌
Vol.23
2024年3月発行

令和5年11月に、伊野地区枝川の宇治団地集会所で、るんるん若ガエル体操を実践する体操グループが誕生しました。「宇治団地体操クラブ」と命名され、現在20人ほど参加されています。

今回は立ち上げに同席して、取材をさせてもらった様子を紹介いたします。

グループ立ち上げのきっかけは、宇治団地の住民の高齢化が進んでいることを知った役員の方の「この集会所で、健康のために皆で何かできたらいい」という気持ちからでした。

まず、実際に体験してもらえよう、るんるん若ガエル体操教室を2回開催し、参加者に

しっかり実感してもらいました。その中で「こうやって皆で集まれる場所があったらうれしいねえ」とおっしゃった参加者の一言がとても印象的でした。

2回目の体操教室が終わった後「これからも体操を続けたいですか？」との声かけに「ハイ!!」と皆さんからの元気な返事が、集会所いっばいに響きました。

それからは、自らお世話役を買ってでてくれた団地の役員の方を中心に、体操に必要な物品を準備したり、体操教室に参加した方が、まだ参加していない方を誘ったりと、皆さんでグループの立ち上げに取り組んでみました。

お世話役の方が「いつも来てくれる女性が『この体操の日が待ち遠しい』と言ってくれたんですよ!その言葉がとても嬉しくて…やる気が湧いてきます」と話してくれました。

自分たちの健康は自分たちで作っていく、その皆さんの想いが宇治団地に新しい集いの場を作りあげたと感じました。

現在は宇治団地に居住している方を対象に、毎週水曜日の午前10時から開催しています。ご興味のある方は是非、立ち寄ってみてくださいね。

体操グループにご興味がある方は、地域包括支援センターまでご相談ください。

（連絡先は裏面に記載しています）



マットを敷いて、床にも配慮しています。皆のことを考えながら、準備をすすめていました。



体操教室は満員御礼。運動の効果や、筋肉の役割を理学療法士がしっかり説明しています。



楽しく交流、しっかり体操。どちらでも集まる場所があるのは素敵なことです。



地域のお宝情報誌
Vol.23
2024年3月発行



幼いころに夢中になって観た紙芝居。一枚の絵を引き抜くというシンプルな場面転換が、演じ手の巧みな語りによって物語にひきこまれていく経験を今でも覚えています。

そんな紙芝居を地域の集いの場で、ボランティアとして披露されているのは笑顔の素敵な曾我京子さんです。

曾我さんが紙芝居ボランティアを始めたのは3年ほど前、きっかけは勤めていた介護施設への恩返しだったそうです。そして、その想いは自分をここまで見守ってくれた地元へと広がっていきました。曾我さんは「ご年配の方と関わることは楽しいです。地元なのでやりがいもありますよ」とにっこり。

吾北山村開発センターや清水公民館で開催している集いの場へ、毎回異なる紙芝居を準備してきては、集まった皆さんを楽しませています。物語もコミカルで思わず吹き出し

てしまうものから、ほろりと涙を誘う人情や悲恋物と幅広いラインナップで観客をワクワクさせてくれます。

曾我さんのよく通るのびやかな声は、マイクなしでも会場に響きわたります。その声はまさに千変万化！場面にあわせて登場人物の機微を見事にすくいとり、観客の心を揺さぶります。哀れな罪人、嫉妬に燃える男、そして艶やかな花魁。読み手の息遣いまでもが芝居の演出として彩りをくわえています。

紙芝居をみている皆さんも真剣そのもの。お話が終わってもそれぞれ感想を言いあったり、作品に関連した歌を口ずさんだりと、余韻を楽しんでいました。

「これからも、皆さんの顔が間近で見れる紙芝居ボランティアを続けていきたいです」と話してくれた曾我さんの声は、優しさに満ち溢れていました。



吾北地区外でも、お声をかけてくれれば出張可能だそうです。



「金色夜叉」の貫一の口惜しさがこれでもかと表現されています。



紙芝居ボランティアの曾我京子さん。まさに千両役者！



すこやかセンター伊野内
いの町ほけん福祉課
地域包括支援センター
生活支援コーディネーター 植田
☎ 088-893-0231